

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 0	0	百日咳	↓ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 97	137	ヘルパンギーナ	↓ 22	47
咽頭結膜熱	→ 11	11	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 11	6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓ 42	47	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 200	295	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 10	7
水痘	→ 32	32	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 48	102	無菌性髄膜炎	↑ 2	0
伝染性紅斑(りんご病)	→ 0	0	マイコプラズマ肺炎	↓ 1	5
突発性発しん	↓ 39	60	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↓ 0	1

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- 手足口病

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

ヘルパンギーナ : 天草

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

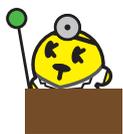
保健所名	インフル	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	
熊本市保健所		21	4	21	31	4	14		12		3	3		10		1				
山鹿保健所		10	1		19				4				*	*						
菊池保健所		30	2	6	32	5	4		8		6	3								
阿蘇保健所					3								*	*						
御船保健所					4	1	1						*	*						
八代保健所		4	1	2	23	1			4			1								
水俣保健所		8			2						1		*	*		1				
人吉保健所				8	13	3	12		3		1		*	*						
有明保健所		16			47	11	3		3		1	4								
宇城保健所		6	3	1	21	6	10		2		1		*	*						
天草保健所		2		4	5	1	4		3		9						1			
計	0	97	11	42	200	32	48	0	39	0	22	11	0	10	0	2	1	0	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	97	11	27	39	11	6	3															
咽頭結膜熱	11		2	3	1	2			2			1										
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42		1	1	1	3	7	6	4	4	3	3	8		1							
感染性胃腸炎	200	9	19	36	17	23	15	6	13	15	3	8	23		13							
水痘	32		3	9	4	7	6	1	1	1												
手足口病	48		7	12	11	6	4	5	1	1			1									
伝染性紅斑	0																					
突発性発しん	39		18	20	1																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	22		6	6	3	6							1									
流行性耳下腺炎	11					1	3	1	2	1	2				1							
眼科定点年齢区分	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0										1	1		1								
流行性角結膜炎	10			2											2			3				
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	2			1					1													
マイコプラズマ肺炎	1																	1				
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0																					

RSウイルス感染症 注意しましょう

RSウイルス感染症は、先週より減少しましたが、まだ報告が多い状況が続いており、注意が必要です。  
 RSウイルス感染症は、冬季に流行する呼吸器感染症ですが、近年はこの時期から流行が見られています。RSウイルス感染症は、乳児が感染する感染症で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにすべての小児が感染すると言われていいます。特に、生後6か月以内の乳児がRSウイルスに初めてかかった場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を起こすことがありますので、生後6か月以内の乳幼児は、感染しないように注意しましょう。



感染経路

- ・ウイルスは咳やくしゃみのしぶきからの飛沫感染
- ・感染した人との濃厚接触や手指やドアノブ等を介した接触感染

症状

鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1~2週間で軽快します。多くは軽症で済みますが、重くなる場合には、咳がひどくなる、喘鳴が出る、呼吸困難などの症状が見られ、場合によっては、細気管支炎、肺炎を起こします。特に、生後6ヶ月以内の乳児が初めて感染した場合、約3割が重症化するといわれ、さらに、早期産で出生した乳児、循環器疾患のある乳幼児では、その危険が高まります。また、一度感染しても再び感染することもあります。

予防方法

- ・流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない。
- ・症状のある家族はマスクをする。
- ・外出後の手洗いをきちんと行う。
- ・子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課